

# 一般質問

## 12月一般質問

### 予算編成過程の透明化と平易化について

国民、県民、市民だれもが税金の無駄遣いをやめて欲しいと思っている。しかし何が無駄なのか、人それぞれの認識は違うのではないかと。全ての事業を一つ一つ検証していきながら、私たちの納める税金がどのような使われ方をしているのか明らかにすべきであると同時に、住民の方にとってわかりやすい形で示す必要がある

Q 予算編成過程を公開している鳥取県や我孫子市の取り組みについて伺う。

A 鳥取県や我孫子市では、予算編成方針、予算要求の概要、予算の査定結果など、予算編成過程について情報の公開をしている。予算編成過程の公開は、行政が健全性を保つためのチェック機能の強化、市民による議論の活性化及び意識向上、職員の予算に対する説明責任の強化などがある。本市では実施計画策定時にパブリックコメントを実施し、市民の意見を聞く手法をとっているが、予算全般については編成過程の公開はしていない。今後、他自治体の状況を参考に実現可能な手法は取り入れていきたい。

Q 本市はどのような予算説明しているのか

A 市民に予算の概要を知ってもらうため、「広報かまがや」で財政状況の紹介と同時に、予算概要を作成し、情報公開コーナー及び市のホームページにて情報提供している。平成21年度から、実施計画事業について、事業の概要、事業費及び財源内訳などを明記し、よりわかりやすく資料を追記した。

Q 北海道ニセコ町のわかりやすい予算説明書について伺う。

A ニセコ町では「もっと知りたいことしの仕事」という冊子を2400冊印刷し、全世帯に無料配布している。この説明書はホームページでも閲覧可能であり、今年度実施する事業の概要、金額等を明記し、写真を活用しているため非常にわかりやすくなっている。わかりやすい予算説明書の作成は、市民の方に自分の住んでいる自治体の財政状況に関心を持つきっかけになったと考えている。一方で財政の仕組みなど大変専門的であるので、市民の皆さんにわかりやすいように今後さらに改善を加える必要性を感じている。



### 鎌ヶ谷市の農業政策について

日本における食料自給率は、カロリー基準で41%と2年連続上昇しているが、農地の減少や農業従事者の高齢化が進み、農作物の生産力は減少し、食料自給率も低下するのではと危惧されている。さらに輸入農作物との消費の奪い合いによる価格低迷など、日本の農業を取り巻く環境は厳しさを増している。

鎌ヶ谷市においても例外ではなく、高度経済成長期に始まる首都圏への人口集中により宅地化への需要が増えたことにより、離農する農家が増え、昭和45年に770世帯、4,333人いた農家数及び農家従事者数が、平成17年には362世帯、1,073人まで減少している。

現在の社会情勢や首都圏近郊ならではの都市農業の課題等を考慮すると、鎌ヶ谷市における農業政策は重要な課題の一つである。

Q 鎌ヶ谷市における農業の現状と課題について

A 大都市近郊地という農住混在化の中で都市化の進行による農地の減少、農業従事者の高齢化や後継者不足など、農業の根幹にかかわる大変厳しい環境の中にあつて、特産の梨を中心とした農産物の生産を行っている。しかし、消費者が身近にいるという大都市近郊という立地条件を生かすことにより、新鮮、安心、安全な農産物を直接消費者に提供できるなど有利な一面もある。このためいかに収益力を強化して経営基盤の安定化を図っていくかという目標を掲げながら課題の克服に努めていく必要がある。